

## 市川市少年野球連盟の事業と運営

### ◆春季大会、夏季大会、秋季大会

市川市少年野球連盟の年間行事は、春季選抜大会（3月～5月）、夏季中央大会（6月～8月）、秋季地区大会（9月～11月）を中心とした大会事業です。春季選抜大会は、地区大会を勝ち抜いてきた代表24チームが出場して年度始めのナンバー1を決定する大会です。続いてすぐに夏季中央大会に移り、市内全チームが出場してトーナメント形式で2ヶ月を費やしてナンバー1の座を争います。夏季中央大会が終わりを告げると、地区では秋季大会が開催されます。。春季大会・夏季大会の優勝チームは、そのあと開催される東葛飾地区少年野球大会に市川市代表として出場します。

### ◆東葛飾地区少年野球大会

東葛飾地区少年野球大会は、千葉県北西部に位置する9市2町（市川市、船橋市、松戸市、柏市、浦安市、流山市、我孫子市、野田市、鎌ヶ谷市、関宿町、沼南町）を代表する少年野球団体によって組織されており、毎年6月に春季大会、11月に秋季大会を実施しています。各市町の代表チームが出場して東葛飾地域のチャンピオン決定の場として、各市町ともこの大会を目標に日々熱戦を繰り広げています。市川市では各季大会に前季優勝チームを代表として出場させており、過去に平川野球部、大町若葉野球部が優勝しているほか、毎季上位入賞を果たしています。最近では原木野球部が昭和63年春季大会に優勝、秋季大会こそ準優勝にとどまったものの平成元年度春季大会では2年連続優勝の偉業をなし遂げました。

### ◆少年野球教室

少年野球教室は、連盟発足と同時に実施され毎年好評を得ている事業のひとつです。過去には、読売巨人軍の選手を招いて市内の少年野球チームを対象に、基本から専門的な指導に至るまで細かい実技、講義を受けました。最近では、読売巨人軍だけでなくロッテ球団や実業団のNTT関東の皆様から指導を受けたり、市川よみうり新聞社の主催で読売野球教室を開催して戴き、日頃の試合や練習とは角度を変えた指導を受けるなど、選手だけでなく指導者の方々からも好評を得ています。

## ◆ 審判講習会

審判講習会は昭和62年から、市内少年野球に携わる審判の養成を目的に実施しています。現在市川市には約80チームの少年野球チームが存在しており、夏季大会では全チームが出場して熱戦を展開しております。

こうした数多くの試合を円滑に行うために、また各地域で活発に試合が行えるように審判員の養成にも力を注いでおります。専門的な技術指導はもちろんのこと、炎天下での試合も少なくないことから、安全管理面にも気をつけて指導をしております。昭和63年度は和洋女子大学の永井教授を招き、健康管理やスポーツ医学に至る講義を受け、千葉県高等学校野球連盟審判部の方々から細かい実技指導を受けました。

今後も連盟では、技術指導にこだわらず健康管理、安全管理面も含め細部にわたる勉強の機会をもうける予定でおります。

## ◆ 遠征事業・交流事業

昭和57年に連盟では、市川市と姉妹都市であるアメリカのガーデナ市に遠征しました。市内のチームから選手を募り、オール市川を組織して最強のメンバーで臨みました。そのあと昭和61年には春季大会ベスト8から選手を選抜して中華民国(台湾)遠征を実施、昭和63年には春秋連覇の原木野球部が単独チームとして初めて中華民国(台湾)に遠征しました。平成元年は再び春季大会ベスト8のチームから選手を募り、市川市代表として中華民国、中華人民共和国のチームと戦いました。また、昭和63年夏には日本国内のチームとの交流ということで、市川市と同名町の子梨県市川大門町に遠征。同年春季大会ベスト8のチームから選手を選抜して、市川市代表チームとして好成績を挙げました。

こうした遠征事業を催す一方で、浦安市の代表チームとの親善試合や近隣の市町と交流試合をしたり、毎年10月には連盟の記念大会と称して親睦試合や交流試合を実施しています。

このようにして、年間を通して連盟では大会を催すほか、東葛飾地区少年野球大会、交流試合、遠征事業、野球教室など数多くの事業を行っております。

## ◆ 連盟の運営

市川市少年野球連盟の運営は、ボランティアによる皆様の力によって賄われております。基本的には連盟の役員、理事、支部長に選ばれた方々が中心となって市川市教育委員会、市川市子ども会育成会連絡協会、市川市青少年相談員連絡協議会、市川市PTA連絡協議会の方々と連携を取りながら運営に当たっております。

現在市川市には、少年野球用として多くの少年野球場、少年広場があります。地主の皆様のご理解を戴き、青少年の健全育成のために無償で借用し、連盟の事業に利用するほか毎日各地域でチームの練習や試合が行われております。近年は宅地化の影響で使用が不可能になる広場が出ていますが、小学校の校庭や河川敷を利用しながらチームの調整に励んでいます。限りある少年広場を円滑に、そして上手に利用するためには各チーム同士が協力して有効的に調整しなくてはなりません。

## ◆ 審判部

大会の運営に当たり、一番苦勞をされているのが審判部の方々です。

年間を通して大会の実質的な運営はもとより、大会が円滑に実施できるように協力を戴いております。審判の皆様には、ボランティアをお願いしているということを承知で無理難題を言っており、大変心苦しい次第です。中村審判部長以下、日曜・祝日をなげうって運営に携わって戴いている方々に対しましては深く感謝をいたします。特に高齢にもかかわらず毎回参加して下さっている小栗審判員には、頭が下がる思いです。審判部の方々には、大会の審判をするだけでなく球場の手入れや、雨天時の対応、各種事業の準備などに至るまで協力を戴いております。

## ◆ 少年野球場・少年広場

現在、少年野球大会で使用しているグラウンドは、柏井少年野球場、大野少年広場、北方少年広場、宮久保少年広場、東国分少年野球場、東国分少年広場、田尻少年広場、妙典少年野球場、南行徳公園グラウンド、行徳橋下河川敷グラウンド、河川敷11号グラウンドなどがあります。これらのグラウンドは、ほとんどが地主の皆様から無償で借用しているもので、市川市役所、市川市教育委員会を通して青少年の健全育成事業に役立てております。